

消防の最前線で培った経験を生かし もしもの時に人を守る備えを届ける

Company Data

株式会社タケダ防災

〒210-0821

神奈川県川崎市川崎区殿町1-9-10-1

<https://takedabousai.jp>

代表取締役

竹田 竜也

高校時代まで野球に打ち込み、消防に関わる仕事を志して航空自衛隊へ。消防業務や消防設備点検を経験した後、中部国際空港・羽田空港でも消防業務に従事する。その経験を原点に防災事業を立ち上げ、2024年に法人化。弟の参画を機に、名古屋を拠点としたイベント事業も始動した。



嶋 まずは、株式会社タケダ防災さんの事業内容からお聞かせください。

竹田 当社は、防災事業とイベント事業の二本柱で取り組んでいます。防災事業では、消防設備の工事や点検・メンテナンス、消防署への申請サポートなどを手がけています。また、イベント会社で経験を積んだ弟も参画し、名古屋を拠点にイベント事業を立ち上げました。

嶋 防災事業では、主にどのようなご相談に対応されているのでしょうか？

竹田 特に多いのは、民泊事業者様からのご相談です。共同住宅を民泊として活用する際は、消防設備や申請内容について確認すべき点が多く、戸惑うオーナー様も少なくありません。そこで私が間に入り、消防署への確認や書類対応も含めて、お客様と一緒に進めています。自分

ではこのスタイルを“伴走型営業”と呼んでいます。

嶋 専門的な部分を一緒に整理してくれる存在がいるのは、オーナーさんにとって心強いですね。今のスタイルに至ったのは、これまでのご経験も大きいのでしょうか？

竹田 そうですね。私は航空自衛隊で消防業務や消防設備の点検を経験し、その後、中部国際空港や羽田空港でも空港消防に携わりました。実際の事故現場

も経験する中で痛感したのは、防災は日頃の備えが全てだということです。だからこそ、点検の現場でも避難設備の使い方や注意点をできるだけ説明するようにしています。いざという時にその説明を思い出してもらえれば、命を守ることにつながるかもしれませんから。

嶋 過酷な現場も経験してきた竹田社長だからこそ、伝えられることがあるのだと思います。もう一本の柱であるイベント事業についてもお聞かせください。

竹田 イベント事業は、弟が中心となって名古屋を拠点に展開しています。弟は前職でイベント運営の経験を積んでおり、そのノウハウを当社で生かしたいと参画してくれました。イベントは多くのスタッフが関わる仕事ですが、ただ人数



をそろえればいいわけではありません。安全で円滑な運営を実現するためには、話を聞く力や周囲を見る力、責任を持って動く人材が欠かせないんです。そのため当社では、面接に時間をかけ、採用や教育に特に力を入れています。

嶋 現場を支える人の質が、そのままイベント全体の安心感につながるわけですね。今後は、会社としてどのような展開を考えていますか？

竹田 今後は防災事業をさらに発展させつつ、イベント事業では東海地方で一番を目指したいです。そして将来的には関東にも展開できる体制をつくっていきたいですね。兄弟でそれぞれの強みを生かしながら、一緒に働いてくれる仲間と会社を成長させていきたいです。

Guest Comment



嶋 大輔 (タレント)

防災の仕事で、単なる点検や設備工事で終わらず、「もしもの時に人を守るための備え」として真摯に向き合う竹田社長の姿が印象的でした。イベント事業でも丁寧な採用・教育に取り組まれていることから、事業の根底に“人を大切に”思いがあるのだと感じます。今後も多く現場に安心を広げていってくださいね。